

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2017 年度（前期）指定公募

『在宅医療推進のための学会等への共催』完了報告書

『がん死亡直前期を在宅でどう乗り切るか』

学会名：第26回東海在宅医療研究会

申請者：武藤 恵美子

提出日：平成30年1月8日

第 26 回東海在宅医療研究会

テーマ『がん死亡直前期を在宅でどう乗り切るか』開催報告書

2017 年 12 月 16 日（土）名古屋大学医学部附属病院中央診療棟 3 階講堂において 240 名の参加者が集まり開催をした。

本研究会は、『がん死亡直前期を在宅でどう乗り切るか』をテーマとした。在宅医療現場でのがん緩和医療と看取りは多くの人々が希望する反面、難しいと感じています。特に様々な苦痛症状が出現する死亡直前期をどう乗り切るかは重要かつ困難な課題です。

今回はそこに焦点を当てて企画をいたしました。（別紙プログラムを参照）

教育講演では『がん死亡直前期のつらさへの対応』について聖隷三方ヶ原病院のホスピス科、今井堅吾先生が講演をし、シンポジウムは古山医院、古山明夫先生をはじめとしたシンポジスト 5 人が『がん死亡直前期を在宅でどう乗り切るか』について講演を行った。また、特別講演では『在宅医療の提供体制と人生の最終段階の医療について』厚生労働省の元在宅医療推進室長伯野春彦先生が講演をした。

今回も在宅医療に関わる多職種がともに集い、情報を共有し、意見を交換する場となり、従来多くの参加者の関心を集めてきたガン末期についての疑問や問題点など、活発な意見交換が行われた。

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による

第26回 東海在宅医療研究会

在宅医療でのがん緩和医療と看取りは、多くの人が希望する反面、難しいと感じています。特に様々な苦痛症状が出現する死亡直前期をどう乗り切るかは重要かつ困難な課題です。今回はそこに焦点をあてて企画をいたしました。

本研究会は
日本医師会生涯教育
(3単位)の対象と
なっております。

2017年12月16日(土) 14:30～18:00

名古屋大学医学部附属病院 中央診療棟3階講堂

名古屋市昭和区鶴舞町65

参加費 無料 定員300名

当番幹事	ゆうゆう診療所	武藤 恵美子
司会進行	名古屋大学医学部附属病院地域連携・患者相談センター准教授	鈴木 裕介
14:30～14:35	開会挨拶	東海在宅医療研究会 会長 葛谷 雅文
14:35～15:10	教育講演	

『がん患者の死亡直前期の症状と鎮静』

聖霊三方ヶ原病院 聖隷三方原病院 ホスピス科 医長 今井 堅吾

15:15～16:45 シンポジウム

テーマ『がん死亡直前期を在宅でどう乗り切るか』

座長	医療法人生寿会かわな病院 院長	亀井 克典
	ゆうゆう診療所 内科・在宅医療担当	武藤 恵美子

- | | | |
|-------------------------|---------|-------|
| 1. 古山医院 | 院長 | 古山 明夫 |
| 2. 訪問看護ステーション憩 | 所長 | 塚本 房子 |
| 3. サービス付き高齢者向け住宅アンジュかわな | 施設長 | 三浦 真弓 |
| 4. 沖勘六薬局 | 訪問薬剤師 | 沖 和代 |
| 5. 中村区介護保険事業所 | 介護支援専門員 | 松井 金子 |

休憩 10分

16:55～17:55 特別講演

座長 名古屋大学大学院医学系研究科地域在宅医療学・老年科学講座教授 葛谷 雅文

『在宅医療の提供体制と人生の最終段階の医療について』

厚生労働省 医政局地域医療計画課 元在宅医療推進室 室長 伯野 春彦

17:55～18:00 閉会の挨拶と時間予告 次回当番幹事

主催 東海在宅医療研究会
共催 公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

ご案内とお申込

会場地図



466-8560
名古屋市昭和区鶴舞町 65

JR 鶴舞駅 名大病院口
地下鉄鶴舞駅 徒歩 2分

駐車場拡張工事中の為、
公共交通機関での来場に
ご協力宜しくお願いいたします。

入口 (病棟 時間外出入口)
会場は中央診療棟 3階講堂です。

お申込要項

下記の所定要項をご記入の上、12月11日(月)までにFAXにてお申込ください。

ご氏名	
参加人数	
ご施設名	
ご連絡先	〒
電話番号	
FAX 番号	

※ご記入いただきました個人情報は、本研究会お申込み上必要な手続きのみ使用させていただきます。

〈FAX 送信先〉

052-744-1914